

# 大成九条の会ニュース

大成九条の会事務局発行

(連絡先) 泉 賢二

電話・FAX：047-342-9982

## 損保9条の会 第18回講演会に62名がリアル参加

新型コロナウイルスが下火になったとはいえ、オミクロン株の市中感染の不安が広がる中で新年を迎えました。根絶に向け、国と自治体による徹底した対策が求められています。大成九条の会ニュースをご送付します。

昨年10月23日に北とびあペガサスホール（王子）でコロナ対策を講じて開催した損保9条の会第18回講演会は、村上護さん（旧大成火災・広島出身）のトークに続いて、フォトジャーナリストの安田 菜津氏によるオンラインリモート方式による大画面での講演が行われ、リアルで62名（大成九条の会から13名）が参加しました（裏面にトークと講演内容を掲載）。YouTube視聴者は172名にのぼっています。なお、講演動画は損保九条の会HP（<https://www.sompo9.org/>）に掲載しています。

昨年は、大成九条の会に19名の方から56,000円にのぼるカンパが寄せられました。深く御礼申し上げます。引き続き、憲法九条を守り、戦争のない平和な日本と世界を実現するために、皆さんと一緒に取組みを進めていきたいと思えます。

今年も、5月3日（火・祝）憲法集会への参加、10月22日（土）損保9条の会第19回講演会開催（王子・北とびあ）を予定しています。皆様の参加をお待ちしています。

## 9条の会が声明を発表。「憲法改悪を許さない全国署名」にご協力ください

九条の会は、昨年11月に「総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて」と題する声明を発表しました。昨年10月に実施された衆院選で自公と維新の会を合わせた改憲勢力が衆議院の2/3超となり、岸田首相が安倍政権以来の改憲策動を強行する構えを強めていることに警鐘を鳴らしました。※声明要旨を裏面に掲載しました。

九条の会を含む4つの団体で構成する「9条改憲NO！全国市民アクション」は、新たに「憲法改悪を許さない全国署名」を呼びかけました。憲法9条に自衛隊を書き込むことと緊急事態条項を創設することなどの改憲4項目に反対し、憲法を生かし、平和と民主主義、人権、環境、暮らし、医療、公衆衛生などの向上を実現する政治を求める内容となっています。署名活動にあたり、解説資料を作成しましたので参照下さい。

署名用紙を送りますので、ご家族をはじめ、友人・知人の方を含め、署名にご協力ください。同封の返信用封筒で返送をお願いします。なお、恐縮ですが切手代のカンパにご協力ください。

## 大成九条の会に163名から583筆の署名が寄せられました

2021年1月に発効した核兵器禁止条約は批准国が57カ国を超え、今年3月にウイーンで開催予定の核兵器禁止条約締結国会議にはドイツがオブザーバー参加する方針を示しました。NATO加盟国でノルウェーに次いで参加を表明しました。ドイツ国内の戦術核兵器引き揚げの要求を示唆しています。

日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める地方議会の意見書は615に達し、全議会の34%を超えました。岸田首相は「核兵器保有国が参加していない」として、唯一の戦争被爆国であるにもかかわらず、米国に追随し参加を拒否しており、核保有国の先棒担ぎを演じています。

なお、核兵器禁止条約署名は、大成九条の会に163名から583筆が寄せられました。皆様のご協力に感謝いたします。なお、損保9条の会全体で署名1,749筆が寄せられています。

(大成九条の会 事務局メンバー) 石川毅・戸谷弘美・石田公子・泉賢二・佐藤秀光・福嶋謙・村上護

## 安田 菜津紀氏講演「被災地、紛争地の声から考える 平和のあり方」

フォトジャーナリストでNPO法人・D4P(ダイアローグ・フォー・ピープル)副代表の安田菜津紀さんは、「被災地・紛争地の声から考える平和のあり方」と題して講演を行いました。安田さんは、細かな取材により撮影した写真をもとに、今なお続く内戦により多数の死傷者と難民がもたらされている中東シリアの現状、名古屋出入国在留管理局収容中に死亡したスリランカ人ウィシュマ・サンダマリさんに対する非人道的な取扱い、東日本大震災被災者避難生活者の実態を告発し、「平和のあり方は、戦争・紛争や災害そのものだけでなく、その後も長期に渡って続く人々のいのちと生活の問題までを含めて考える必要がある」と問いかけました。(損保9条の会HPから)

## 村上 護さんトーク「核兵器禁止条約署名に取り組む私の思い」

損保人トークとして、旧大成火災・現損保ジャパンOBで広島県呉市出身の村上護さんが「核兵器禁止条約署名に取り組む私の思い」と題して発言しました。広島への原爆投下による親族や知人を多く失ったこと、重度障害を持つ娘さんを支えながら、保育園づくりや保育運動に取り組んできたことにふれ「命の重み、大切さ」を訴えました。核兵器禁止条約署名は、村上さんのそうした思いを綴った手紙を受け取った友人・知人ら120名から457筆が寄せられました。「命ある限り、核廃絶、平和を求め続けたい」と結びました。(損保9条の会HPから) ※村上さんにはその後も署名が寄せられ、12/28現在で126名から473筆に達しています。



(損保人トークの村上 護さん)



(安田 菜津紀氏)

## 【総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて】要旨 2021.11.12 九条の会

衆院で改憲勢力が2/3超となったことで、改憲問題は新たな局面を迎えた。岸田政権は安倍政権が推進した9条破壊の加速化(対中国の軍事同盟強化を目指す「国家安全保障戦略と防衛計画大綱の改定」を2022年末までに強行。「敵基地攻撃能力保有・日米共同演習強化・辺野古基地建設強行」推進。)を行い、同時に憲法9条明文改憲に向け、憲法審査会での改憲案討議入りを狙っている。維新の会、松井代表の「2022年参院選と同日に改憲国民投票を」という発言や国民民主党の「憲法審査会毎週開催合意」は、自民党の策動を応援するものである。日米軍事同盟強化と改憲の動きは米中の軍事対決・挑発を激化させ、日本と東北アジアの平和を阻害するものである。

九条の会をはじめとした市民の草の根からの運動は、自民党などの改憲企図を阻み続けてきた。市民と野党の共闘と数次にわたる署名運動、立憲野党の奮闘により、憲法審査会で改憲論議を行わず、19年参院選で改憲勢力2/3を打ち破り、安倍政権を挫折に追い込んだ。2022年参院選で新たな改憲策動に待ったをかけるのも、市民と野党共闘の力以外にない。市民の皆さんが改憲と9条破壊阻止のため、決意を新たに立ち上がることを訴えます。